

福岡大学 医学会ニュース

No. 51

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

デュマ(ドミトリ)の思い出



名誉教授
前眼科学教授

大島 健司

私が教授に就任した時の医学部長は精神科の西園教授でした。西園医学部長は新設の医学部とスタッフを盛り立てるために「東の慶応、西の福大」となれば称せられるようにと口癖のようにいわ

シア等がその主な国でした。ところが、平成三年になつて一通の手紙がロシアから舞い込みました。それによると母親から自分の息子が未熟児で生まれ、現在失明している。何とか視力の回復はできないものだろうかという内容でした。手紙ではつきりわからないのですが、どうやら未熟児網膜症で網膜が全剥離して水晶体に接しているいわゆ

る「白色瞳孔」の状態のように思われました。当時(実は今でもそうなのですが)、この様な状態になった眼に対して手術を行い、実績をあげている眼科医はハーバード大学の広瀬教授と私のみでした。手術適応の有無は来日してもらって直接診察しなければ決定できず、もし適応がなければ折角来日してもらってもそのまま帰国しなければならず、いわば無駄足となり入院手術となれば高額な費用を必要とするので、その旨を連絡しましたが、是非にということでした。た

むを得ず眼科の方で外務省関係、支払いのための銀行口座の設置、宿舍の問題等を手配し、その結果首尾良く来日し、入院手術となりました。この事を聞きつけた読売新聞が大々的なキャンペーンをはつてくれ、そのためにライオンズクラブの協力やボランティア団体もでき、「ドミトリちゃんを支援する会」という名称で、募金活動や通訳その他において大きな援助をいただきました。肝心の手術は無事終了し、平成四年に再入院して再手術を行い、その後は順調に経過し、現在はおもう大

事収穫されたリンゴを見せたいだき、一個ずつ戴いていました。ただその後院長が交代してからはなんの音沙汰もなく、ひよつとするとリンゴの樹はもうなくなつたのではないかと案じていました。最近しらべてもらった所、リンゴの樹は健在であるという事でほっとしました。

このドミトリちゃん(お母さんはデュマとよんでいた)で、私もデュマとよんでいた(笑)の件は、当時の日露の外交関係の問題もあり、自見省三郎議員の働きもあって、日本中に知られ、福大病院の名前が一挙に広く知られるようになりました。その後もロシアや遠くは地中海沿岸、近くは中国、韓国からの来院もありました。このデュマの手術をきっかけとして日本国内でも同じ悩みを持つお母さん達からの問い合わせや入院手術が数多くあり、白色瞳孔となった未熟児網膜症の硝子体手術という、プロ中のプロの技術ではあり

と云われています。大学病院では真の老年医療が残念です。



療養型病院で働いて

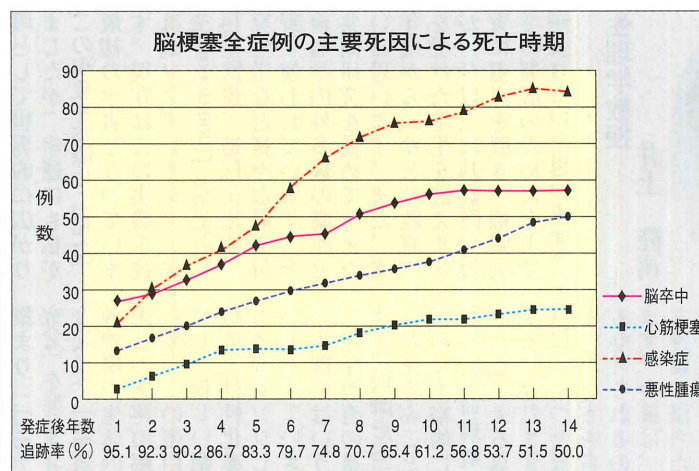


名誉教授
前内科学第五教授

西丸 雄也

福岡大学を退職後、引き続き四月一日から療養型病院で診療に従事しております。入院している人達の多くは独立歩行が出来ないか、痴呆状態で独居が出来ない人達で、平均年齢が八十歳という

高年齢者の集団です。脚もとがふらついて転んで骨折したり、誤嚥性肺炎を繰り返したり、あるいは周囲の状況が判らなくなったりしながら、この病院に辿り着いた人達です。七十歳代の人をみると、



長い間
ありがとう
ございました。



(平成十七年三月一日〜平成十七年九月三十日まで)に退職された方

○大島 健司 教授 眼科学
定年のため

○西丸 雄也 教授 内科学第五
定年のため

○都 温彦 教授 歯科口腔外科学
定年のため

○八尾 恒良 教授 筑紫病院消化器科
定年のため

○坂口 正剛 講師 筑紫病院消化器科
定年のため

○井上 敏生 助教授(整形外科)
白十字病院へ

○石井 久敬 講師(精神医学)
国際医療福祉大学
リハビリテーション学部へ助教授

○渡邊 洋 講師(消化器科)
福岡赤十字病院へ

○石橋 正義 講師(呼吸器科)
県立太宰府病院へ

○小川 正浩 講師(循環器科)
米田留学のため

○辻 恵美子 講師(循環器科)
一身上の都合

○松永 洋一 講師(神経内科・健康管理科)
徳島文理大学薬学部へ(医療薬学教授
以上三月三十一日付け

○山本 正昭 助教授(脳神経外科)
一身上の都合

○古村 南夫 講師(皮膚科)
島根大学医学部へ(皮膚科学助教授
以上、四月三十日付け

○大島 孝一 助教授(病理学)
久留米大学医学部へ(病理学教授
以上、五月三十一日付け



退任後の晩節



名誉教授
前歯科口腔外科学教授

都 温彦

晩節という定年退職後の悠々自適の生活を送る人生をイメージします。私は、本年三月三十一日、七〇歳をもちまして福岡大学を定年退職いたしました。一般的には晩節といわれる時期も含めて現役を勤めさせて頂いたわけですが、私にとりては現役が終ると人生の社会的役割も終つてしまふというふうには思つていません。晩節は人生の老後の時期を指しています。後で哲学的、宗教的に考える機会が多くなつてくると思ひます。どなたかの箴言に、人間は生きてきたように死ぬといふ言葉があります。晩節についても、個人がこれまで生きてきたように生きるのではないと思ひます。福岡大病院と医学部では精一杯仕事をさせて頂き、充実して過ごすごとが出来ましたので悔いはいません。さて本年三月三十一日、退任してから早くも半年が経ちました。今の私にとりては福岡大学で過ごした三十三年間余りと退任後の半年とこれからの晩節を

長い間有難うございました



名誉教授
前筑紫病院消化器科教授

八尾 恒良

一九七九年以来、二十六年間(第二内科六年、福大筑紫病院二十年間)御世話になりました。この間の概要を記し、退任の挨拶に代えさせていただきます。福大第一内科就任当初は外来、X線、内視鏡検査の duty が週五日それに講義、比較的暇でした。しかし、胃癌、大腸癌はともかく腸疾患が少なくないのは驚きました。外来の看護婦さんに肛門出血の患者さんがいたら、いつでも呼び出してくれる

どのように生きてきたか、生きることになるのか、という三つに分けられると思ひます。福岡大病院と医学部における期間は創設期や人員不足ということもあって無我夢中になつて働いてきたと思ひます。退任後は大学組織の係わりや枠から抜けて個人的要素によつて社会と係わり対応することが多いと思ひます。まだこれから社会的に活動が続けることになれば、これまでと同じ内容は延長であつても、今度は社会的対応を直接自分自身の感性と能力で処理することが多くなります。大学にいた時には知らなかつたり、見えなかつたことに気付くようになつたように思ひます。退任してから早くも半年が経ちました。今の私にとりては福岡大学で過ごした三十三年間余りと退任後の半年とこれからの晩節を

どのように生きてきたか、生きることになるのか、という三つに分けられると思ひます。福岡大病院と医学部における期間は創設期や人員不足ということもあって無我夢中になつて働いてきたと思ひます。退任後は大学組織の係わりや枠から抜けて個人的要素によつて社会と係わり対応することが多いと思ひます。まだこれから社会的に活動が続けることになれば、これまでと同じ内容は延長であつても、今度は社会的対応を直接自分自身の感性と能力で処理することが多くなります。大学にいた時には知らなかつたり、見えなかつたことに気付くようになつたように思ひます。退任してから早くも半年が経ちました。今の私にとりては福岡大学で過ごした三十三年間余りと退任後の半年とこれからの晩節を

新風

平成17年4月1日付けで本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

解剖学教授

立花 克郎



生理学教授

井上 隆司



私は昭和六十二年に久留米大学医学部を卒業し、研修医として福岡大学第一内科に入局しました。平成六年に奥村博前教授、浅野喬教授のご指導のもと学位を取得し、その翌年から解剖学教室(宮内亮輔教授)で研究・教育に従事してまいりましたが、本年、四月一日付けで同教室の主任教授に就任いたしました。現在、超音波エネルギーの生体への影響について研究を始めています。この研究を始め、たきつかは博士論文のテーマであった「超音波エネルギーによるインスリンの経皮吸収の検討」に始まります。この時、超音波照射によつて皮膚の薬物透過性が促進されることを実験的に見いだしました。その後、解剖学教室の走査型電子顕微鏡で皮膚表面、癌細胞の表面を観察して多くのところ、超音波により多数のミクロの「穴」があくことを発見しました。現在、超音波エネルギーは細胞内への遺伝子導入の一手

今春より今永一成教授の後任として生理学教室に赴任いたしました。私は、昭和五十六年に大阪大学医学部を卒業し、九州大学医学部附属病院小児科で二年間の研修を終えた後、直ちに故郷山形県(旧九州大学医学部薬理学)の教室に入局いたしました。ここでは、単離細胞にパッチクランプ法を適用して、当時未だ仮説の段階にあつた「受容体作動性Ca²⁺流入機構」の解明を研究テーマとして取り組みました。現在、この研究は「遺伝子スリーパーファミリー」の研究へと展開しております。遺伝子は、種々の物理化学刺激で活性化される、全く新しい電位非依存性Ca²⁺流入チャネルをコードしており、気管支喘息、高血圧、動脈硬化、腫瘍性疾患、筋ジストロフィー、アルツハイマー病等、種々の病態に関わつてることが明らかになつております(本年、全国基礎・臨床の研究者で

眼科学教授

内尾 英一



本年四月一日付けで、大島健司主任教授の後任として着任いたしました。私は昭和六十年に九州大学医学部を卒業し、横浜市立大学病院で臨床研修を受け、九州大学医学部眼科学教室に入局しました。その後横浜市立大学医学部眼科学教室に移り、小田原市立病院、横浜南共済病院に勤務し、平成二年に横浜市大眼科助手となりました。平成五年から英国ロンドン大学セント・ジョージス病院に留学し、熱ショック蛋白質に関する免疫学的研究に従事いたしました。帰国後、茅ヶ崎市立病院眼科医長を経て、平成八年に

放射線科教授

(放射線部第二部長) 桑原 康雄



この度、四月一日付けで放射線部第二に赴任した桑原康雄です。出身は湯の町大分県別府市です。専門領域は核医学ですが、今話題のPET (positron emission tomography) に関する仕事を前任の九州大学で約二十年間やってきました。主にモヤモヤ病などの脳血管障害やアルツハイマー病やパ

内科学第五助教授
坪井 義夫



私は一九八六年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学神経内科に入局しました。卒業後の十年間は千葉大学とその関連病院で臨床神経学を實踐、研鑽し、その中から、頸部脊椎性筋萎縮症の症例をまとめ、筋萎縮性側索硬化症との鑑別を明確にした臨床神経生理学的研究で学位をいただきました。その後、General neurologist としての臨床経験をつみ、脳卒中や神経救急疾患が主な興味対

A portrait of a man with dark, wavy hair and glasses, wearing a yellow polo shirt. He is looking directly at the camera against a light blue background.

た心臓血管外科の門を叩いたわけです。木村道生



佐賀市出身で、昭和五

整形外科講師
副島 修

昭和五十八年に九州大

産婦人科講師
宮本 新吾

いします。

教室紹介

内科学第二

福岡大学医学部内科
学第二(循環器・代謝)は、
病院においては循環器
科を標榜し診療にあた
っています。循環器科の

査数は年間約一、〇〇〇例、経皮的冠動脈形成術(PCI)は約三二〇例、急性冠症候群の収容数は年間二〇〇例を数えます。特に不整脈は、

析を含めた危険因子の診断と治療にも重点を置いています。最新の循環器画像診断として、冠動脈内超音波、定量的冠動脈解析、

センター、クリーブランドクリニク、カリフォルニアコレステロールリサーチセンター（以上アメリカ）、ミュンスター大学（ドイツ）などで、多くの

を含む)の臨床研究を
実施中です。また、高脂
血症治療では、善玉コレ
ステロールである高比重
リポタンパクコレステロー

平均入院患者数三十二名、年間入院患者数二

五〇例、カテーテル心筋焼灼術は約二七〇例、ペースメ

エコー、カルトマツ。ピングなども取り入れています。

さまざまな学会の施設認定を受けており、専門医の

てコレステロール転送蛋白阻害薬、PPAR α 刺激

患は、冠動脈疾患（狭心症や心筋梗塞）、不整脈、

の植え込み術は約六〇例と全国でも有数の施設です。

指導医数十三名、院内医員六名、院外医員（派遣病

（日本内科学会、日本循環器学会、日本内分泌学会、

床へ向けて研究開発中で、
今後は、臨床・研究両面

心臓病と、冠動脈疾患の危険因子である高脂

の心筋生検による病理診断、
心血管疾患の危険因子治

生十三名、研究生九名、留
学中六名となっています。

また、福岡市医師会とも

うにしたいと思っております。

痛風、肥満などの代謝疾患です。心疾患においては、心臓カニニル食

また、原發性高脂血症、難

病院、九州医療センター、九州ガンセンター、新古賀病院、

ライフスタイルケアフォーラムを各区医師会の先生方

100

祝 「第7回福岡大学医学会賞」

金賞(1名)



下地 栄壮 先生

Inhibition of cholesteryl ester transfer protein increases serum apolipoprotein(apo) A-I levels by increasing the synthesis of apo A-I in rabbits

銀賞(2名)

五十音順



今給黎尚幸 先生

GENERATION, IMMUNOLOGIC CHARACTERIZATION AND ANTITUMOR EFFECTS OF HUMAN MONOCLONAL ANTIBODIES FOR CARCINOEMBRYONIC ANTIGEN

福岡 五龍 先生

Mutations of Neuronal Voltage-gated Na⁺ Channel $\alpha 1$ Subunit Gene SCN1A in Core Severe Myoclonic Epilepsy in Infancy(SMEI) and in Borderline SMEI(SMEB)

福岡大学医学会 第52回例会および第28回総会(報告)

●日時 平成17年11月9日(水)17時30分から ●場所 医学部臨床大講堂

1. 第28回総会

進行 三角佳生 先生

1) 議事

議題

- ①報告事項
- ②平成16年度会計報告および平成17年度予算案
- ③その他

2. 第52回例会

進行 三角佳生 先生

1) 開会の辞

2) 会長挨拶 医学部長 満留昭久 先生

3) 第7回福岡大学医学会賞受賞論文講演

- | | | | | |
|-----|-----|----------|----|----------|
| 講演1 | 講演者 | 下地 栄壮 先生 | 座長 | 朔 啓二郎 先生 |
| 講演2 | 講演者 | 今給黎尚幸 先生 | 座長 | 黒木 政秀 先生 |
| 講演3 | 講演者 | 福岡 五龍 先生 | 座長 | 満留 昭久 先生 |

4) 第7回福岡大学医学会賞金賞論文投票

3. 第7回福岡大学医学会賞授賞式

進行 三角佳生 先生

- 1) 開票結果発表
- 2) 授賞式
- 3) 閉会の辞

学位取得

次の方は、平成十七年三月二十三日付けで福岡大学より医学博士を授与されました。

課程修了による学位取得者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|-----------------|--|
| 大西 広一 (病態構造系専攻) | 小松 文成 (病態構造系専攻) | 佐藤 雅之 (病態構造系専攻) | 樋口 隆男 (病態構造系専攻) | 榎本 好史 (病態構造系専攻) | 江崎 嘉十 (病態機能系専攻) | 江崎 正光 (病態機能系専攻) | 白木 圭 (病態機能系専攻) | 鶴澤 礼実 (病態機能系専攻) | 早志 友里 (病態機能系専攻) | 城田 京子 (病態生化学系専攻) | 西村 典子 (病態生化学系専攻) | 藤野 正礼 (病態生化学系専攻) | 山口 隆広 (病態生化学系専攻) | 吉田 公輔 (社会医学系専攻) | 劉 兆 (社会医学系専攻) | 江頭 秀人 (病態構造系専攻) | |
| 永沢 善三 (微生物・免疫学専攻) | 范 平 (外国人研究員) | | | | | | | | | | | | | | | | |

論文提出による学位取得者

- 属、高木靖寛助手、した各科の連携の良さも加えて、研修医は、充実した修練を行える体制になつています。また、九州では数少ない日本消化器内視鏡学会認定の内視鏡指導施設としての役割も担っています。筑紫病院消化器科は、そうした高度の専門技術を持った消化器科専門医を多く輩出してきました。
- 冒頭に述べましたように、筑紫病院消化器科は十月より松井敏幸教授を中心とした新たなスタートを切ります。新教授は、消化管グループの津田純郎講師、八尾建史講師(留学中)、宗祐人兼任講師、平井郁仁助手(救急部所

教室紹介

筑紫病院消化器科

まず、筑紫病院開院に伴い一九八五年七月に開設された筑紫病院消化器科を約二十年間主宰された八尾恒良教授が本年三月に定年退職され、後任に松井敏幸先生が教授に選出されたことを報告させていただきます。

消化器科は、消化管グループと肝胆膵グループで構成され、全ての消化器疾患を取り扱っています。

内視鏡治療、さらには新しい診断学と治療法の確立への研究は、国内でトップクラスのレベルを維持しています。さらに、他の施設に先駆けて、小腸の全内視鏡検査、内視鏡検査を取り入れ、国内最高水準と評されてきた小腸X線検査の経験を活かした新しい小腸疾患の診断学と治療法の確立を目指しています。

特に、超音波検査、CT、MR、血管造影、電子内視鏡、超音波内視鏡、精密X線造影検査を用いた肝胆膵疾患への高精度の診断と専門性の高い治療を行っています。また、ウイルス性肝炎治療にも積極的に取り組み好成績を上げています。

両グループともに、多くの入院患者を受け持ちながら月曜から土曜日まで専門医が外来診療と上部・下部内視鏡検査、X線造影検査、腹部超音波検査を行っています。他に必要な画像検査は、放射線部に何時でも相談に乗ってもらえる関係が築かれています。外科、脳神経外科、泌尿器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、病理部等との関係も大変良好です。そのため、診察・検査依頼に対する素早い対応が可能で、極めて円滑な診療を行っています。また、夜間、休日、充実した24時間体制により、院内と救急外来で緊急を要する患者の診察、検査、治療をバックアップしています。

したがって、医局員は多忙な日々を送っていますが、ベッドサイドを中心とした学生、研修医への指導と消化器科専門医の育成に怠りはありません。新研修医制度のもと、当院は、院内で完結する研修カリキュラムを実践



医師国家試験に92名が合格

第九十九回医師国家試験(二月十九〜二十一日実施)に一一四名が受験し九十二名(新卒八十二名・既卒十名)が合格した(合格率は八〇・七%)。合格者氏名および研修先は次のとおり。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|------------|------------|---------------|----------------|------------|----------------|------------|------------|------------|----------------|----------------|----------------|------------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-----------|------------|------------|------------------|------------|------------|------------|----------------|------------|-----------|------------|---------------|---------------|------------|-------------------|------------|-------------|----------------|---------------|------------|-------------|------------|------------|----------------|
| 樋口 和女 福大病院 | 井上 治 福大病院 | 坂本 王哉 福大病院 | 鷺淵 雅世 福大病院 | 守谷 知香 福岡済生会病院 | 永石千佳子 長崎大学付属病院 | 角 俊一郎 福大病院 | 佐伯 郁心 琉球大学付属病院 | 深見 絵里 福大病院 | 荒木 陵多 福大病院 | 内野 明美 福大病院 | 木村 岳史 信州大学付属病院 | 弓削 英彦 熊本大学付属病院 | 佐藤有紀子 熊本大学付属病院 | 藤田あゆみ 福大病院 | 江川 美砂 県立広島病院 | 山下 兼史 福大病院 | 田中 綾子 福大病院 | 杉村 朋子 福大病院 | 正田 祥子 福大病院 | 福田臨太郎 福大病院 | 小畑さやか 岡山市民病院 | 加倉 寛也 福大病院 | 梶原 淳 福大病院 | 小吉 里枝 福大病院 | 白橋 淨彦 福大病院 | 津田 昌宏 大阪市立大学付属病院 | 中村 大介 福大病院 | 野田 晋平 福大病院 | 橋本 崇史 福大病院 | 藤山俊一郎 熊本大学付属病院 | 小野 友輔 福大病院 | 水野 学 福大病院 | 森内 秀之 福大病院 | 中野 良 佐賀大学付属病院 | 松岡竜太郎 鹿児島大学病院 | 渡邊 慎治 今村病院 | 荻田小夜子 大阪大学医学部附属病院 | 田山 親吾 福大病院 | 李 大相 九州大学病院 | 村田 清一 近畿大学附属病院 | 林 良達 熊本大学附属病院 | 橋本 博史 福大病院 | 石井 達範 米の山病院 | 黒岩 健輔 福大病院 | 樋崎 智也 渥美病院 | 深堀 俊彦 長崎大学附属病院 |
|------------|-----------|------------|------------|---------------|----------------|------------|----------------|------------|------------|------------|----------------|----------------|----------------|------------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-----------|------------|------------|------------------|------------|------------|------------|----------------|------------|-----------|------------|---------------|---------------|------------|-------------------|------------|-------------|----------------|---------------|------------|-------------|------------|------------|----------------|